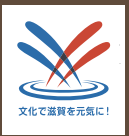


文化・経済フォーラム滋賀



News Letter

第5号 (2019年7月)

昨年度、「多くのアーティストが滋賀県に移住し創作活動の拠点としているが、もっとアーティストと地元地域をつながられないか。」という問いかけから各地の先進事例を学び、滋賀県では何ができるかについて関心が高まりました。そこで、今年度の「文化で滋賀を元気に！」というプロジェクトでは、【アートは地域に何ができるか<滋賀編>】を考えます。

椿昇氏を講師にお招きし、『アートを産業にする』というテーマで、地域が芸術の担い手をどのように受け入れ育てるかという課題を考えました。

■ 椿昇氏のレクチャーより

将来のアートの担い手がおかれている厳しい現状

国内では芸術家を志す学生が減少しています。いつまでも芸術は続くと思っていますが、事態は地球温暖化よりも早く深刻化しています。基本的にアートでは食べていけません。私学は学費が高いので奨学金を借りる学生が多いのですが、正規雇用でないと返済できないのです。

だれがするのか

京都造形芸術大学では卒業制作展をアートフェアに変えました。学生が自分の作品の前に立って、来てくれる人に一所懸命説明します。作品も買ってくれるし、就職もそこで決まります。希望が出てくるのです。実は作品を買ってくれる層は30代、40代の経営者。彼らによると、アーティストになるのは起業だと。同じ起業家として応援して、一緒に成長したいと来てくれます。市場がないだけでなく、接続する努力を大学をはじめ関係する周囲がしてこなかったのです。

自分たちで芸術を支える市場を作りたい。江戸時代は美大も美術館もなかったけれども、大量の美術作品が生まれ、たくさんの素晴らしい芸術が出てきました。行政も市民、企業も出し合って支える。市場原理一辺倒も行政の助成金一辺倒もダメ。みんなで知恵を出し合って割り勘でいくこと。持続可能とはそういうことではないでしょうか。50/50、皆さんと僕ら半々でやっていきましょうよということです。一方的に議論するのもダメだし、与えてもらうのを待っていてもダメ。自分は何ができるかを考えてそれぞれ行動していくことが大事です。

滋賀県のポテンシャル

滋賀は京都のようにアートフェアはできません。しかし京都に近く、アーティストが多く住んでいる。アーティストの巣穴はどこか考えてみてください。ポテンシャルは高い。アーティストは倉庫が大好きです。所有者とつないで空間を提供してあげられるとよいのです。

お知らせ 地域社会における芸術の役割についてシンポジウムを開催します。
日時：2019年11月30日(土) 14:00~16:30
場所：コラボしが21 大会議室

プロジェクトのキックオフとして、「第12回文化ビジネス塾」を開催しました。

2019年7月15日(月・祝) びわ湖ホール研修室
講師：椿昇氏(現代美術家、京都造形芸術大学教授)
企画・進行：企画推進員(秋村洋、角間利昭、藤原昌樹)
参加者：57名



■ レクチャーの後はグループワークを実施。全員が自分が差し出せるものを名札の裏に記入し、グループごとに各自が持ち寄った資源で会社等を設立して収益化を考えます。8つのグループができ、各リーダーが「こういうものを持っている人が集まったので〜という会社を設立しました。」などとプレゼンを行い、よいと思う提案に会場で投票し、一番決めました。

全員が当事者になる 《椿氏によるグループワークのまとめ》

これだけ滋賀県にいろいろな文化的コンテンツを持ち、パワーのある方がいらっしゃるということを知らなかったのではないですか？自分は何ができるか相手に伝えるのが、社会をよくする一歩だと考えます。互いのポテンシャルを引き出しあって、そしてそれを行政が支えるのです。

今の世界は「不信」から成り立っています。「もの」は売れなくても「物語」は売れる時代です。「うちの倉庫が空いているから面白いことをやってみて」ということでも物語になるのです。アートもきちんとした文脈がなかったら、モノだけでは成立しないのですよ。物語があれば経済は動き始めるし、そういうシステムを作ることが主な目的になってくると思います。

文化経済サロン (ビジネスカフェ)

グローバル企業が幹部候補を高名な美術系大学院に送り込む、あるいはニューヨーク、ロンドンのエリートが早朝のギャラリートークに参加する・・・

ビジネス書大賞2018年準大賞の「世界のエリートはなぜ『美意識』を鍛えるのか? ~経営における『アート』と『サイエンス』~」著者の山口周氏の講演会を行います。

日時 9月4日(水) 講演 13:30~15:00 交流会 15:15~16:30
会場 滋賀県立文化産業交流会館 第1会議室
定員 100名
参加申込 滋賀県立文化産業交流会館 (電話 0749-52-5111)

*全国ですぐに会場が満席になる人気の講師です。お申し込みはお早めに。



山口 周 氏
(やまぐち しゅう)

慶應義塾大学文学部哲学科、同大学院文学研究科修士課程修了。電通、ポストンコンサルティンググループなどで戦略策定、文化政策などに従事。著書に『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか?』(光文社新書)など。

紫香楽宮と甲賀の神仏 —紫香楽宮・甲賀寺と甲賀の造形—

高梨 純次 (個人会員)
公益財団法人秀明文化財団 参事

テレビ離れの今の世の中で、確実に視聴率 20% を叩き出しているのが、ご存知、NHK朝の連ドラ。今秋は、信楽焼の女流作家をモデルにした番組とのことにて、「ナゼ信楽焼を扱う展覧会をしないのか」とのお叱りの声も。展覧会を仕込む側から言わせていただくと、計画から実施まで、通常は最低でも1年以上かかるので、ナゼもっと早く情報を掴めなかったのか、そういうセクションはどうしていたんだ、という気持ちでしょうか。しかし、今秋の MIHO MUSEUM の企画展は、少し朝ドラのテーマにかすっています。9月14日から12月15日まで、信楽焼もその括りに入れられている六古窯のひとつ備前焼の大展覧会です。そして、ここでご紹介しようとしている「紫香楽宮と甲賀の神仏」は、奈良時代、天平文化の只中の天平14年(742)に、聖武天皇によって、滋賀県甲賀市信楽町に営まれた離宮と、それに続く

造形文化を扱う壮大な企画展です。紫香楽宮の存在は、短命に終わったこともあって、あまり知られてはいないのかもしれませんが。しかし、聖武天皇は紫香楽宮で、大仏を造ろうと詔を発せられたのです。今から40年ほど前、土地区画事業が始まり、信楽町宮町周辺から、巨大な柱の一部などが出土しました。年輪年代学という、その材木が伐採された年を見分ける方法によって、この柱の材木はこの宮の造営期間と一致し、宮町周辺の発掘調査によって、この地に宮殿が建てられていたことが分かりました。そして、現在も継続されている発掘調査によって、7,000点に近い木簡や、墨書土器などのまさしく官衙一役所一でしか出土しない資料が、大量に出土しています。今回の展覧会では、これら発掘によって出土した貴重な、聖武天皇とその吏僚たちが用いた一級の品々、壮大な井戸枠や銅資料、木簡や墨書土器などを展示します。

聖武天皇は、大仏を造ろうとされたように、仏教によって国を治めようと思われました。皇后の光明子や皇女の孝謙天皇なども、篤い信仰によって、一切経書写を発願します。その前段として、南土山・常明寺などに伝来している国宝の「大般若経(長屋王願経)」など、奈良時代の古写経も公開します。聖武天皇が信頼を寄せた良弁僧正は、近江の仏教に偉大な足跡を残しました。良弁僧正が開いた栗東・金勝寺の仏像や神像、その伝統を継承して造像される甲賀の平安古像、櫛野寺や正福寺に祀られる等身の観音菩薩像などにも焦点を当ててみたいと思います。

入場招待券 30 枚をプレゼント (お一人様 2 枚まで)

ご希望の方はフォーラム事務局へ FAX またはメールでお申し込みください。

夏季特別展 II 「紫香楽宮と甲賀の神仏—紫香楽宮・甲賀寺と甲賀の造形—」

会期：2019年7月27日(土)~9月1日(日) 会場：MIHO MUSEUM

文化経済アートステージ 2019 初夏の庭園コンサート

花文造園土木株式会社 (法人会員)
常務取締役 山村千恵子

去る6月9日、当社が所有する施設「苑友會館」に於いて庭園鑑賞を兼ねたコンサートが開催されました。

この建物は東近江市五個荘竜田町にあり、近江商人の中でも代表的な商人の松居久左衛門の旧宅で築 200 年余は経つという家屋ですが、長年空き家になっていたため腐築が進み庭もかなり荒廃していました。そこで、当社が平成 15 年から 4 年の歳月をかけて修復し、「苑友會館」として再生させ、その後屋敷を囲む北庭・東庭・南庭・西庭の庭園整備にかかり、全ての部屋から新しく生まれ変わった庭を眺められるよう工夫を凝らしました。平成 19 年から毎年 9 月に五個荘地区で開催されるイベントの日、一日だけ一般公開しています。

文化・経済フォーラム滋賀の事務局から、この「苑友會館」をコンサート会場として使いたいというお話をいただいたときには、交通の便も決して良くない所で、ステージも無くほとんどが畳の部屋の建物で、どんな感じのコンサートになるのかと心配しました。しかし、スタッフの方々に手際よく会場を整えていただき、当日は畳の上でお座布団に座って聴くというとても和やかなコンサート会場になりました。

一部はハープデュオ、二部は弦楽カルテットとどちらも素晴らしいアーティストの演奏に、予想をはるかに上回る来場者の方に至福のひと時を過ごしていただけたと思います。また、今回は誰もが一度は聴いたことがある馴染みやすい曲やポピュラーな曲を選曲していただいたこともあり、コンサートがとても身近に感じられました。コンサートが始まる前に降った小雨で、木々の緑が一段と美しく感じられる庭園を見ていただきながら、爽やかな初夏の風によって美しい調べが流れる素晴らしい「初夏の庭園コンサート」になりました。(挨拶する花文造園土木(株)山村社長 写真左下)



初夏の庭園コンサートは、6月9日(日)、花文造園土木(株)様のご協力により開催しました。定員を上回る113名のご来場ありがとうございました。[事務局]

感じる心を育む現代美術 ～CAF.Nびわこ展～

藤原 昌樹 (個人会員)
彫刻家

CAF.N の CAF は Contemporary Art Festival の略称、N は Nebula の頭文字で星雲の意味。アートが渦巻状に展開されることと、充満したアートのエネルギーが新しい時代に生きる人たちへ届くことを願って名付けられました。CAF は 1978 年以来、埼玉美術の祭典、第一次 CAF、第二次 CAF 展と呼称を変更しながら、現代美術のコンセプトと表現の問題を社会に問う運動を展開してきましたが、現在これに加え、地域とアートの交流、さらにアートによる国際交流の方向性を中軸に位置づけ、世界に誇る琵琶湖を拠点に活動の密度を高めていこうとしています。

それは、限界芸術を深めることにより生まれ出た純粋芸術が、日常とともにあることへの気づきに繋がるよう、アートと教育をローカライズする(地域化、地域的特色を与える)ことにより作品のあり方を明確化し、パラダイム・チェンジ*できる環境づくりを模索しております。団体展やコンクールという形式ではなく、大きな空間にジャンルを超えた作品を一同に展示発表できる場として、また、アートの入り口を模索するため、展覧会の開催を継続しています。

* その時代や分野において当然のことと考えられていた認識や思想、社会全体の価値観などが革命的にもしくは劇的に変化すること

2019 CAF.Nびわこ展 [主催:実行委員会 代表 藤原和子]

今年は「アートの力!」をテーマに、全国から集まった出品作家の精力的な創作活動を紹介し、現代美術のあり方を現代社会に再提案する展覧会です。老若男女、全ての人に鑑賞していただける環境で、現代美術を通して滋賀の良さを広く知っていただき、面白さと重要性、芸術を身近に感じていただくことを狙いとしています。展覧会会期中にワークショップも実施します。

会期: 2019年9月3日(火)~9月8日(日)
9:00~17:00 (最終日 15:30 まで)
会場: 大津市歴史博物館 企画展示 A・B 室
入場無料

文化・経済
フォーラム滋賀
後援事業

ワークショップ等 (参加費無料)

- ① 巨大シャボン玉・消える彫刻美術館を作ろう!
9月7日(土) 10:30~12:00 / 三井寺旧社務所前駐車場
- ② くるりんスティック・ハイパーを作ろう!
9月7日(土) 時間未定 / 展覧会場
- ③ ことばアートの世界へようこそ!
9月8日(日) 10:30~12:00 / 展覧会場
- ④ アートの散歩
9月8日(日) 13:00~14:30 / 展覧会場

文化とは耕すこと～読む楽しさ、書く楽しさを次世代に伝えるために～

滋賀文学会 (団体会員)
会長 岡本 光夫

滋賀文学会は、昭和26年1月に、湖国の文学風土の向上をめざして、小説家や詩人などによって設立されました。このとき始められた「滋賀県文芸コンクール」が、翌年、「滋賀県文学祭」と改称され、以来、滋賀文学会が運営主体となって、今日に至っています。

「滋賀県文学祭」には、小説、随筆、詩など8つの応募部門があり、県民の皆さんの創作活動の発表の場として、全国でも稀な総合的文学祭となっています。しかしながら、近年、応募者の高齢化が進展するとともに、若い世代を中心とした「文字離れ」もあって、応募総数の逡減が続いています。「読み、書き、そろばん」との言葉がありますが、とりわけ、「読むこと」と「書くこと」は、社会生活を営むうえでの必須スキルで、幼い頃からの取り組みによって、はじめて習得が可能となるものです。

日本の名随筆のひとつ『徒然草』の第十三段で、兼好法師は、「ひとり灯のもとに文を広げて、見ぬ世の人を友とすること、こよなく慰むわざなる。」(ひとり灯の下で本を開いて、会うことのできない昔の人たちを友だちとすることは、とても気持ちがよいものです。)と書き記しています。「読むこと」を通じて蓄積されたものがないと、「書くこと」にはつながらないと思います。

滋賀文学会では、滋賀県文学祭への若い世代の参加を促す一環として、滋賀県高等学校文化連盟との連携のもと、県内高校の文芸部が作成した文芸誌や散文、詩、短歌、俳句の各部門の優秀作品の選考評価にかかわるとともに、文芸部の活動へ担当部門の理事を派遣する「出前講座」などにも取り組んでいます。

また、8月24日(土)には、ピアザ淡海において、滋賀県芸術文化祭の開催に合わせた、俳句・川柳・冠句の体験型ワークショップ「親子で遊ぼう! 5・7・5」を行うなど、これからもさまざまな機会に、将来ある世代を育てるための文芸風土の「耕し」を実践して行こうと考えています。

第69回滋賀県文学祭

小説・随筆・詩・作詞・短歌・俳句・川柳・冠句
募集期間: 8月31日(土) まで
表彰式: 11月24日(日) 13:00~
詳しくは、「第69回滋賀県文学祭」で検索

岡本 光夫
昭和26年1月生まれ。守山市在住。
滋賀文学会会長(平成23年度~)
日本ペンクラブ会員、随筆文化推進協会会員
随筆家、フォトエッセスト、
クロマチックハーモニカ奏者



連載 レポート近江屋考

「きのう、きょう、あす」 ⑤

歩くブログ記者 岸野 洋

京都新聞社友、前・(公財)滋賀県文化振興事業団理事長



春、遅咲きの桜がまだ咲き残る4月半ばだった。深夜バスで朝一番、午前6時に東京駅に着いて、その足で地下鉄丸の内線池袋から川越へ行った。東京勤務時代の仲間の集いが東京日本橋であって、その前にだったが、前回のこのレポートで京都東山の古川町商店街で「豆腐の近江屋」取材したおり、川越にも豆腐の近江屋さんがあることを知って、行って見た。

平日の木曜、まだ朝は早い。駅前から大阪の京橋みたい長い商店街をずっと歩いた。いまも一日4度の時を知らせる高さ16mの時の鐘が見えて、蔵屋敷の続く角つこのとあるところに、豆腐ドーナツの貼り紙があった。看板は「近長—細田長兵衛商店」。アポなし、早すぎたか、店は開いてない。

開店は昼からか〜と、町歩きして、市役所委託か、ボランティアのおじさんが観光客へアンケート調査中。わざと聞き取られに行つて、川越の近江屋について逆質問したら〜である。このあたりは「近」のつく古いお店が昔から多いという。布団の「近与」、お米屋の「近常」…、私の同級生も「近与」でしたが、もう店は閉じましたと。文化経済フォーラム滋賀の近江屋調査研究で、幹事の加藤賢治・成安造形大

埼玉は小江戸の町、川越へ行って、近江の「近」を屋号に記す「近長」のお店が3軒、隣り合っていた。観光客で賑わう時の鐘通り、豆腐の近長さん、うどんの近長さん、魚料理の近長さん。みんな屋号は近長—細田長兵衛である。

学准教授らが埼玉など北関東は近江商人がそのまま住んで、近江屋で営業している店が多い〜との報告があったが、川越もそうだったのか〜と改めて知った。

川越祭り会館、川越市美術館、博物館見て回り、昼を回って、再び豆腐の近長さんへ。店は開かず、お休みだったが、隣のうどんの近長さん、魚料理の近長さんは営業中、魚料理のお店へ入って、女将さんに話を聞いた。「豆腐屋さんが本家で、みんな親戚です。近江との関わりは本家が詳しいですが、川越へは江戸時代からですし、うちの息子も4代目です。滋賀はもう遠くなりましたが、ご先祖がこんな観光客の多い場所にお店を開いてもらって感謝です」と。本家の豆腐屋さんの屋根の鬼瓦は大きく年代価値高く、町の歴史の象



徴として博物館移管という。今は二代目鬼瓦、お休み店舗の本家2階屋根を見あげて、観光客年間60万人の町を後にした。

ご案内

あなたのまちで頑張っている人に気づくことから始めませんか？

フォーラムでは「2019文化で滋賀を元気に！賞」の候補を募集しています。文化であなたのまちを元気にしている人、団体を推薦してください。自薦・他薦は問いません。受賞者には、益々の活動を祈念して、記念のトロフィー（陶芸家 川崎千足氏作）のほか、賞金（大賞5万円、各賞2万円）を贈呈します。応募締切は、10月31日（木）。表彰式は、第10回総会（2020年2月11日琵琶湖ホテル）で行います。

文化・経済フォーラム滋賀

第10回総会・講演会・交流会

2020年2月11日（火・祝）琵琶湖ホテル

『暮らしの手帖』編集長の澤田康彦氏（東近江市出身）による講演会のほか、びわ湖ホール音楽アンサンブル演奏会、「2019文化で滋賀を元気に！賞」の表彰式、提言発表を行います。

2019年度役員 *任期は2021年の総会終結時まで

顧問	三日月大造	滋賀県知事
顧問	大道 良夫	滋賀経済団体連合会会長
相談役	木村 至宏	成安造形大学名誉教授
相談役	石丸 正運	美術史家
代表幹事	川戸 良幸	琵琶湖汽船(株)代表取締役社長
副代表幹事	田中 健之	新木産業(株)代表取締役会長
副代表幹事	中村 順一	元・(公財)淡海文化振興財団理事長
副代表幹事	山中 隆	(公財)びわ湖芸術文化財団理事長
幹事	秋村 洋	(株)プラネットリビング代表取締役
幹事	東 清信	びわ湖放送(株)代表取締役
幹事	井上 健夫	劇場プロデューサー
幹事	大澤恵理子	(株)メリーデイズ代表取締役
幹事	大沼 芳幸	(公財)滋賀県文化財保護協会普及専門員
幹事	加藤 賢治	成安造形大学准教授
幹事	高梨 純次	(公財)秀明文化財団幹事
幹事	中嶋 実	滋賀県文化スポーツ部長
幹事	馬場 章	元・滋賀県立大学副理事長
幹事	南 千勢子	ピアニスト
幹事	山本 勝義	(株)ビルディング・コンサルタントワイズ代表取締役
幹事(事務局長)	竹村 憲男	(公財)びわ湖芸術文化財団法人本部長
監事	饗場 貴子	元・大津青年会議所理事長
監事	北川 正義	(株)しがぎん経済文化センター取締役社長

注) 中嶋実氏は5月9日就任、北川正義氏は7月11日就任

2019年度企画推進員 *任期は2020年の総会終結時まで

秋村 洋	(株)プラネットリビング代表取締役
角間 利昭	(株)しがぎん経済文化センター文化事業部次長
加藤 賢治	成安造形大学准教授
中村 順一	元・(公財)淡海文化振興財団理事長
藤原 昌樹	彫刻家

*五十音順、敬称略

[発行・問合せ] 文化・経済フォーラム滋賀 事務局
〒520-0806 滋賀県大津市打出浜 15-1 びわ湖ホール内
電話：077-523-7146 FAX：077-523-7147 bunka-keizai@biwako-arts.or.jp
https://www.biwako-arts.or.jp/rd/bunkakeizai/